



## 卒業式を挙行了しました

3月1日に第42回卒業式を挙行了しました。270名が高校生活3年間の思い出を胸に、それぞれの目標に向かって旅立っていきました。

卒業おめでとうございます。



在校生による黒板装飾

## 卒業生答辞(要旨)

中鉢 航太(三年・名取一中出身)

今日卒業するにあたり、この日までにたくさんの物語があったように思います。それはここにいる一人一人が違います。思い返してみるとこの三年間は新型コロナウイルスと共存して過ごした三年間だったと考えます。中学校の卒業式も満足のいくものではない中で、この名取北高校に私達は入学をしました。一年生の最初の時は休校などもあり、クラスメートとも満足に話す機会や関わる機会が少なかったように思います。しかし、そのような逆境の中でも各々が自分の友達の輪を広げていったのではないかと思います。二年生の時は新型コロナウイルスの拡大が不安視されている中でも、修学旅行に行くことができました。その三泊四日という短い時間の中でも一人一人が友人とのコミュニケーションを大切にし、活動できたと考えます。

そして三年生になり、すべての行事で北高生のパワフルさを感じました。特に文化祭でのステージ発表は心動かされるものでした。そして、自分の進路に向かってみんなで頑張っていたように思います。新たなステージに向かって友人とともに歩むことができたのはとても良かったと考えます。

私自身もこの場所で大々く成長することができたと思います。そしてたくさんの友達ができたこと、それは私にとって一生の財産です。卒業生一人一人について考えると、一人一人が才能にあふれているように思いました。誰もが私にはないものをたくさん持っています。成績が良い人、運動ができる人、話がとて面白い人、明るくて歌が上手い人、人の相談に乗ってくれる優しい人、このような人たちに囲まれながら、高校生活を歩めたことはとても良かったと思います。三年間を通して一人一人が部活動、行事などで充実していたと思います。

様々な場面での笑顔が印象的でした。また、高校三年間を振り返ると新たな自分の一面にも気付くことができると思います。何気ない高校生活の中で様々な悩みを抱えたと思います。そのような中でも自分で考えて進んできたはずで、そして今日卒業式を迎えられたことは大変大きな意味を持っていると思います。その意味を決めるのはここにいる一人一人です。

またこのような最高の学校生活を送ることができたのは、家族、友人や先生のおかげだと思います。まず私達をこれまで見守ってくれた家族のおかげでたくさんの困難を乗り越えることができたのではないかと思います。毎日のお弁当、本当にありがたいです。困っているときにアドバイスをくれてありがたいです。いつも仲良くしてくれてありがたいです。これからは家族に支えられながら成長していきたいです。そして、いろいろな場面で支えてくださった教職員の方々には感謝しかありません。楽しい学校生活を送るうえで先生があつて学校が成り立っていることを

深く感じました。普段の授業だけでなく様々な行事でいろいろな先生と関わる機会がありました。進路達成に向けてはたくさんの助言をいただくことができました。4月からは私達一人一人がそれぞれの道に進むこととなります。進んだ道がどんな道になるかは想像することはできません。しかし、ここまで過ごしてきた日々が自分が困ったときに支えてくれることになると思います。そして、私はここにいる卒業生全員が何かしらの秀でている武器を持っていると信じています。待ち受けている困難も乗り越えられると思っています。また私自身、これから様々なことに挑戦したいと考えます。目標を諦めず努力すれば運をも味方につけることができると信じて挑戦していきます。このような考え方に至ったのは、この名取北高校で学ぶことができたからです。密度の濃い高校三年間を最高なものにしてくれたみなさんには感謝しかありません。そしてこれからの変化が大きい時代に対して私達自身で考え前進していきたいと思っています。

## 在校生送辞

加島 実夕(二年・村田第一中出身)

私が先輩方と初めてお会いしたのは、二年前の対面式でした。新型コロナウイルスの影響もあり、人数が制限され、全校生徒で対面することはできませんでした。先輩方がとても温かく迎えてくださったおかげで、少し高校生活への不安が薄らいだことを覚えています。新型コロナウイルスの影響を受け、部活動が停止し、思うように活動ができなかったり、学校行事が形を変えて実施されたりなど、我慢を強いられることが、何度もあったかと思えます。しかし、そのような状況においても、自分たちにできることを探し、その時にできることに全力を注いでいた先輩方の姿は私達の憧れでした。学校生活の中で、いつも先輩方はリーダーシップを取ってくださり、先頭に立って私達を導いてくださいました。名取北高校で先輩方とともに学んだ二年間は私達在校生にとって、とても得がたい経験であり、先輩方は私達の誇りです。私たちが在校生も先輩方の築きあげた名取北高校の伝統を守り、受け継ぎ、発展させることを約束します。

本日より先輩方はそれぞれの人生を歩み出されます。この先に起こることは嬉しいことばかりでなく、時には辛いことや不安になることもあると思います。そのような時にはこの名取北高校で学んだことや、三年間を共に過ごしたかけがえのない仲間の方々の笑顔を思い出してください。名取北高校で過ごした三年間はきっと先輩方のこれからの人生の大きな力になると思います。明日からは先輩方いらつしやらないのだと思うと、とても寂しく、不安な気持ちでいっぱいですが、自ら選んだ道に自身を持ち、これから輝かしい未来に向かって行かれる先輩方を私たちは心より応援しています。またいつでもこの名取北高校にいらしてください。卒業後の活躍されている先輩方に出会える日を楽しみにしています。

## 校長式辞要旨

東日本大震災から丸十二年が過ぎようとしています。未曾有の自然災害が東北の地を襲ったわけですが、トルコ・シリア大地震のような自然災害はその後各地で起きています。また、同時多発テロや各地での紛争だけではなく、2020年から続く新型コロナウイルス感染症等の未知の病気への対応等々、十年前、二十年前に現在の状況を予測することは難しかったと思われます。もちろん予測が困難な変化としては災害などだけではなく、例えばスマートフォンを始めとするICT技術の驚異的な進展、AI技術を様々な家電製品や交通機関に応用することで得られる利便性の良い生活、そして社会の動きのような大きなデータを分析制御する技術など、我々の生活を豊かにする面においても大きな変化があったのも確かなことです。

それらの変化の方向性は不確実であり、また様々な要因が複雑に絡み合い、そして変化した後の姿についても現実には起きている事象にも関わらず、曖昧な場合が多く正確に把握することに困難さが伴います。このような状況はVUCA（ブーカ）な状態と呼ばれています。VUCAとはVolatility（ボラティリティ）、Uncertainty（アンサートゥンティ）、Complexity（コムプレキシティ）、Ambiguity（アンビグイティ）という四つの言葉の頭文字をとって作られた言葉です。それぞれ、変動、不確実、複雑、曖昧というどちらかと言うとネガティブな意味を持っている言葉です。それもそのはずで、このVUCAという言葉は、2001年に起きた同時多発テロのような戦争のスタイルを呼称する言葉として、アメリカにおける軍事用語として開発され使用されたものです。その後、2010年代にビジネス用語として用いられ始め、現在は教育の現場でも使われることがある言葉でもあります。この言葉を用いた「VUCAな状態」の意味としては、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、将来の予測が困難な状態となっていることを示しています。

さて、このような状態の時に、我々が抱える課題を解決するにはどのように取り組んでいけば良いのでしょうか。これまで、よくPDCAサイクルで取り組むことで、様々な課題を効果的に解決していくことができると言われてきました。このPDCAサイクルとはPlan（プラン）Do（ドゥ）Check（チェック）Action（アクション）の頭文字をとって作られた言葉で、計画し、実行し、評価し、改善するといったサイクルで取り組むことで課題を解決しようとする手法となります。

ところが、VUCAの状態の時、つまり予測が困難で複雑で曖昧な状態の時に、事前に計画を立ててから実行に移すことはなかなか難しいことがわかるでしょう。つまりPDCAサイクルの最初の段階で躓いてしまうわけです。そこで、VUCA時代に対応する新たな手法としてOODA（ウーダ）ループが提唱されました。OODAとは、「観察する（Observe オブザーブ）」「状況を理解する（Orient オリエント）」「決める（Decide デサイド）」「動く（Act アクト）」の頭文字をとった言葉です。現場の状況をまずはよく観察し、理解を深め、その場で柔軟に判断し、行動する。このような取り組み方がVUCAな状態の時には求められてきているのです。複雑な状況を観察する力、その状況を理解するための深い知識、そして行動を進める決断力と実行力。もちろん、OODAだけですべてが解決するわけではなく、同時にPDCAサイクルで取り組む必要性もあります。

ここまでの話を聞くと、これからの時代はこれまでよりも複雑で困難な状況なのかと暗澹たる思いになってしまうかもしれません。しかし、歴史を振り返ってみれば、今の時代だけがVUCAなのではなく、これまでのどの時代も予測が困難で複雑で曖昧な状況にあったことがわかるはずです。そのような中でも我々の先人達は一つひとつ課題を解決し、助け合いながら困難な状況に取り組んできたのです。卒業生の皆さん、予測が難しく複雑な時代ではありますが、自らの頭で考え、よく周囲を見て、助けるべき存在を助け、助けが必要な時には助けを求め、教えるが必要な時には素直に首を垂れる。皆さんが人間という社会性の生き物が集うコミュニティの一員として生きていくためには、自分一人の力だけで生きているのではないことを認識しつつ、様々な事案に対応できる力を身につけ、身につけた自分の力を社会のために生かしていこうとする姿勢こそが大切なことだと思います。本日、名取北高を巣立つ皆さんが、これまで身につけた知識や知恵、技術を存分に生かしつつ、これからの新しい時代の中でも存分に力を発揮することを願い、饒の言葉とします。



**4月行事予定** 7日(金)新任式・始業式・入学式 10日(月)身体測定・対面式・部紹介 11日(火)進路希望調査  
13日(木)・14日(金)尿検査 14日(金)～28日(金)前期面談週間 17日(月)1年結核検診  
19日(水)3年歯科検診 20日(木)1年歯科検診 24日(月)1年循環器検診